

えんぼとたんぼの始発駅

里山ビオトープ二俣瀬

会 報 第 144 号

2013年7月23日

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

編集責任者：原谷 一誠

1. 活動報告（事務局 記）

—6月29日（土）UNCCAの総会に6名当会から出席致しました。

管さんが「親子自然観察隊の活動助成」を改めて要望しました

—7月6日（土）大雨の中16人の会員が参集していただきました。

ミーティングを前半に行い

① 賀河内川の葦刈るは10日に改めて行う事になり、参加者は会員7名（寺本会員含む）と中電ボランティア40名とで同時に行う事になりました。

② 日の環境コミニテイイベントには関根会員のお世話でパネル3枚を持ち込む事になりました。

③ 今年のホタルの状況を関根・前田・吉富各会員の報告を受けました。

後半の作業は、田んぼ周囲・水路土手・散策道全般・草原ゾーンのそれぞれを大々的に行いました。

—7月10日（水）前活動日に雨のため出来なかった須賀河内川の葦の刈り取りを中国電力さんボランティア活動と併せて行いました、今井会長・管・原谷・金子・落合・寺本・原田 7名と中電宇部電力所 午前16名と午後15名の31名にてビオトープ横須賀河内川の葦刈りと片づけと一部浚渫で大変綺麗になりました、うだるような暑さの中、水分や休憩をとりながら行っていただき感謝いたします。

—7月12日（金）水車水路の水量オーバーによって市道下管内を通過できなかった水がオーバーフローして土手を崩壊しました。原因は在りますが我々の責任外でしたが本日18時に臨時招集いただき崩壊した土手の修復をしました。参加者は今井会長・吉富・金子・藤村・渡辺・事務局と元会員の原田武さんの応援で修復工事を19時半に完了しました。

—7月20日（土）ものすごく暑い中16名（会員14名＋フジときらら応援2名）の参加でした

①□ 田んぼのコナギを手押除草機にて実施しました。

② 中電応援の刈取り葦の焼去

解散後

③ 沢登りの下見と整備作業（関根・阿部・管・若林・落合・前田）

—7月21・22日（日・月）

イナゴの捕獲を朝晩3回行いました。既に稲の葉を喰い散らしていますので早めの駆除を吉富会員と行いました。今年も大発生恐れがありますので臨時徴集を架ける事も計画中です。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

—7月27日（土）てくてくまち歩き「一度は行きたい水車の回る二俣瀬ビオトープ」

—8月3日（土）フジときららネット子どもエコクラブ

同日 厚東中学校生徒会ボランティア活動対応

◎行事

—8月3日（土）親子自然観察隊（川の水棲動物）

—8月17日（土）維持活動（エコアップ、草刈作業）

—8月31日（土）維持活動（エコアップ、草刈作業）

3. 来訪者の声

—13年7月7日 自然を残す事はエネルギーが要る。継続を祈るのみである。

—7月12日— 川上郷土史研究会

林さんに楽しい話を聞かせていただきました。ありがとうございます。

4. 会員の声【 親子自然観察隊から会員になって 】（岡村 恵子 記）

また今年も親子自然観察隊が始まりました。4月の結隊式を行い、第1回目は「食べられる野草」で、子供達が摘んで来た野草を天ぷらにして食べてもらいました。草餅もヨモギの香りのする美味しい草餅でした。5月の野鳥の観察の時は厚東川東堤防を散策し、野鳥を見つけ、鳴き声を聞いて、一喜一憂しました。6月の田植えの日は、朝から激しい雨でしたが、田植えの時には雨も上がり、紐を引っ張って間隔を取りながら綺麗に稲を植えていきました。団子汁を作って、田植えの後、皆に食べて頂きました。残らず食べていただいて、手伝った甲斐が有りました。作業の後でこうして皆で食すと、こんなにおいしく食べられるのですね。

2004年と2005年の観察隊に私の子供も参加しましたが、この観察隊の良い所は、里山の中でも道路に出ても講師の方やサポートの会員の方々が親子に付いて行動されますし、また、会員の方達は行事の前には下見をし、田植えの前には会長さんや会員さんが里山の維持管理に一生懸命されることで、安全に野草を探したり観察したりが出来ることです。

ビオトープに来ると、日常生活では感じられない季節感を体感できます。家の回りには雑草がいっぱいで、よもぎやつくしや野びるぐらいです、しかし6月ビオトープにはホタルが飛び回っています。これからも、どれだけ出来るか分かりませんが一生懸命お手伝いしていきたいと思っています。

5. 親子自然観察隊 「 」

今月はありません。

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 （管 哲郎 記）

(7) ヒヌマイトトンボ (*Mortonagrion hirosei* Asahina) ～その2

イトトンボ科 ヒメイトトンボ属

<ヒヌマイトトンボ代替地の改修工事完成について>

前回に続き今回もまたヒヌマイトトンボについて紹介させていただきます。宇部市に棲息する全国的にも貴重なイトトンボであり、全国に先駆けて本種の”代替地”作りがなされた場所です。今年の5月、13年前に造られたヒヌマイトトンボの代替地の改修工事が無事終了し、新たな第一歩が始まりました。

宇部市の厚南地区を通る湾岸道路のため、ヒヌマイトトンボの最大の生息地が埋め立てられ、当時やむなく県はヒヌマイトトンボの代替地を作りましたが、10年を待たずして棲息地が荒廃し、1時期3,000頭を数えたヒヌマイトトンボは数百頭にまで激減しました。

当初、新設された代替地にヒヌマイトトンボがたくさん出現していた5年目ごろより、筆者はすでに代替地の荒廃を心配し、県へたびたび書面をもって注意を行ってきました。

当時は最盛期でもあり、意見を真剣に取り上げていただけませんでした。6年目、7年目になると棲息数が急激に減少し、あわてた県により、ようやく代替地の保全の相談を受けることになりました。

8年目、9年目には応急処置と予算化を行い、第2期目の”ヒヌマイトトンボ保全検討委員会”を立ち上げ、10年目により設計図が出来上がり、2011年よりようやく改修工事が始まりました。2012年、2013年と施工を続け、このたび新しい代替地が3年をかけ完成いたしました。まだ、全国でもヒヌマイトトンボの代替地を長きにわたり成功させた例はありません、これからが正念場ですが、うまく行くことを願っています。

新しい代替地は、潮が引くと観察通路が現れます、事故は自己責任となりますが、ヒヌマイトトンボを観察する者にとって、最高の場所に仕上がっていますので、みなさん、是非一度観察に出かけられてはいかがでしょうか？6月～7月が見頃です。一般的なヒヌマイトトンボの棲息地は、大人が胴長を付け、ぬかるみに足を取られながら、命がけて観察しなければならない場所が多いのです。

下図 完成した新しい代替地 一部



観察しやすいように、周辺の斜面には小段を造成しました。



5月下旬よりヒヌマイトトンボも羽化を始め、6月中旬の初期調査では、昨年の倍以上の個体を確認したようで、まず安心しています。2年前に造成した場所より100頭、昨年施工した場所より400頭ほどが確認されています。今年度の施工場所は調査していません。



ヒヌマイトトンボのヤゴ、羽化直前



羽化しているヒヌマイトトンボ

盛んに羽化するヒヌマイトトンボと、未熟な同色型♀のヒヌマイトトンボ。 →

6月に入るとヒヌマイトトンボの羽化が活発になってきました。
羽化は順調に行われています。



7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

- (1) 会員の皆様には、暑い中での維持管理に参加戴きご苦勞様です。他のボランティア活動に参加してみて、参加者への待遇が非常に良く、当「つくる会」も見習わなくてはならない事が重々解ります。やはり何と言っても浄財が必要ですが会員だけでなく環境企業や地区の業者さんからもご協力を得なければとおもっています。

8. 編集後記

久しぶりにビオトープへ。川がすっきりきれいに刈られている。池には以前にも増して睡蓮が他の水草を押しつけて広がっている。素晴らしい<二俣瀬の睡蓮>と誇るかの様に。コオホネは遠慮がちに。この睡蓮の広がりを単純に喜んでいいのかどうか、でも素晴らしい。その上をチョウトンボ達が飛び交っている。今年も又美しい姿を見せてくれている。田んぼの中では稲を取り囲んでコナギが蔓延っている。除草機を押して何往復も大変、腰を曲げ手での除草も大変、汗だくの作業だった。又刈り取られていた川の草も炎天下汗だくの焼却、ご苦勞様でした。ネムの木の花は盛りを過ぎ、土手には萩の花がさいている。もう萩の花なのかと思いながら。

(松本 フデ子 記)